

「読もう会」十一月の課題本は『武蔵野インディアン』（三浦朱門 著）だった。著者の母校、東京府立第二中学時代の仲間を中心に物語が展開される。

その第二中学は北多摩郡立川村に創設されていた。第一中学はいわずと知れた今の日比谷高校。第三中学は両国高校、第四中学は戸山高校、第五中学は小石川高校。いずれも都心であるのに、なぜ第二中学が僻地ともいべき立川に設置されたのだろうか。

明治政府の考え方は、第一は重要なもので中央に置く。第二は中央から外れた不穏な空気のある所にそれを抑える意味で設置する。そして第三は伝統のある重要拠点に置くというものであった。

それにより、第一師団、一高は東京。第二師団、二高は仙台（理由…戊辰戦争で官軍と戦った東北の地は要注意）。三高は伝統のある京都。第三師団は？……名古屋。第三師団が大阪でなく名古屋になったのは、西南戦争で大阪の軍は弱かったことと、関西、北陸への睨みをきかす意味で名古屋にしたらしい。

参考までに自衛隊の第二師団は旭川、第三師団は大阪近郊の伊丹である。

第二中学が中央から外れた立川は解ったが、不穏な空気とは何なのだろうか。

・三多摩は明治二十六年に地元の意向を無視し、神奈川県から東京府に編入された。

・明治十七年には近くで秩父困民党事件が起こっていた。

そこで明治三十四年（1901）に第二中学、第三中学、第四中学を同時に設置する際に、第二中学を立川に創設し三多摩に花を持たせた。なお、八王子にしなかったのは、八王子は絹で栄えており、遊郭があったためという。

では、大阪府の中学はどうだったのだろうか。第一中学は現在の北野高校。第二中学は郡部の堺、八尾、茨木が候補に上がり、大阪人らしく理屈ではなく抽選により第二中学は三国丘高校、第三中学は八尾、第四中学は茨木となった（いずれも明治二十八年創立）。重要な地である天王寺には第五中学が一年遅れて創設された。